

日本版BPSDケアプログラム



行動心理症状をメッセージとして読み解く

「誰かに大切な物を盗まれた」

「そこに、いないはずの人が見える」

これまで「病気だから」と捉えられていた

認知症の方々の“問題行動”には、実は“意味”がありました。

「病気だから、もう自分たちの手に負えない、治らない」と
考えてしまいがちだった認知症の方々の行動を、正しく翻訳することで、
心の中にある“想い”“願い”を知ることができる。

そんな“メッセージ”、“ヒント”を解析し、

たしかなケア戦略を導き出すために生まれたのが、

認知症ケアの質を最大限に高めるシステム『DEMBASE』を用いた

日本版BPSDケアプログラムです。

認知症に向きあうすべての人の拠り所となり、

より質の高い認知症ケアへの指針となることを、めざします。



公益財団法人
東京都医学総合研究所
Tokyo Metropolitan Institute of Medical Science



参加・導入にあたって

- アドミニストレーター研修を受けることで、このプログラムに参加できます。
- プログラムの参加に関しては、各自治体担当者にお問合せください。

日本版BPSDケアプログラムとは 行動心理症状をメッセージとして読み解く

DEMBASE(デムベース、英称:DEMENTIA Behavir Analytics & Support Enhancement)を用い、ケアスタッフの皆で行動心理症状の《観察・評価》、《背景要因の分析》、《計画》、《実行》の4ステップを繰り返し継続しながら、ケアの質を高めていきます。

例 物盗られ妄想があり、家族に頻繁に電話をする人の場合

